

# 第33回姉妹都市 訪問派遣団 報告書



## 目次

1. 派遣団員紹介	P. 1
2. 滞在スケジュール	P. 5
3. ホストファミリー紹介	P.17
4. パフォーマンスについて	P.37
5. 派遣団引率者から	P.38
6. 滞在を終えて	P.39

## 派遣団員紹介



**早野 佳奈** 15歳/聖徳学園高校

**参加理由** 私がこのプログラムを知ったのは祖母にこのプログラムについて教えてもらったのがきっかけです。もともと外国の文化に興味があったので参加してみたいと思いました。

**抱負** 私はこのプログラムに参加し、英語力の向上と外国の文化を現地で学ぶことを目指しました。また、アメリカ滞在し他国の文化に触れることで改めて日本を見つめ直したいと考えました。



**花岡 真亜珠** 16歳/聖望学園高校

**参加理由** 母に勧められ、アメリカに2週間もいられるということに惹かれ、そして少しでも自分の将来に向けての視野が広がるならいいなと思い参加しました。

**抱負** 自分の価値観や、考え方、アメリカ人はどんな暮らしをしていてどんな違いがあるのか、何よりも英語を少しでも学ぶことです。



**宮崎 奏** 17歳/八王子実践高校

**参加理由** 祖母に誘われたのが最初で父親も祖父母ともインディペンデンスに行っていました。自分自身とても海外に興味があり、ホームステイをしてみたかったです。そして親善を深めるために行って様々な体験ができると言われていたので応募しました。

**抱負** アメリカでは自分のやりたいことなど在り方を誰の目も気にせずに、自分を貫くという姿勢が印象的で、自分自身もそういう考え方になりたいと思いました。



**平野 李佳 18歳/白梅学園短期大学**

**参加理由** アメリカ、インディペンデンス市で異国の文化に触れ、現地の方々との交流を通し、沢山のことを学び、それらを吸収することで、今の自分に足りないものや、課題を見つけてそれを克服し、変わりたい、成長したいため。

**抱負** また、姉妹都市交流について理解し、この関係を次の世代にしっかりと受け継いでいくために自分が貢献できることは何かを常に考え、活動していきたいと考えております。



**尾寄 凜菜 18歳/早稲田大学**

**参加理由** 30年以上にわたって続いてきた姉妹都市交流プログラムだからこそできる経験や人と人とのつながりの深さを体感する中で、自分とは異なる文化を持つ人々との関わりあいを学びたいと思ったため。

**抱負** 自分で自分のできることを制限しないように様々なことに挑戦したい、現地の方との関わりがひと夏のもので終わらないように、インディペンデンス市で出会う全ての方々と誠実に向き合いたいと思います。



**加藤 美樹 18歳/拓殖大学**

**参加理由** ホームステイをしたことがなくて、英語力を上げたいから。このプログラムなら英語以外のたくさんのことを得て帰ってこられると思ったから。

**抱負** 派遣団員の1人として、今まで受け継いできたものをしっかり次に繋げられるようにすることと2週間を無駄にしないように毎日を悔いなく過ごすことです。



**椎谷 日菜 20 歳/中央大学**

**参加理由** 学生のうちに自分の興味のあることに積極的にトライし、様々な経験をしたと思ったから。また、小学校から地元の学校ではなかったため、東村山市に貢献するようなことは一度もしたことがなかったが、姉妹都市交流をきっかけにこれから東村山市に関わっていきたいと思ったからです。

**抱負** 異なる文化、価値観、考え方を受け入れることで、その違いを楽しめるような寛容さを身につけたい。いろいろなことに積極的にチャレンジできるようになりたい。



**中原 安彩 19 歳/早稲田大学**

**参加理由** 自分の世界を広げるためにも海外に行きたいと思っていました。自分が長年住んでいる東村山市で姉妹都市交流が行われていると知り、自分も関わってみたい！そしてアメリカで忘れられない体験をしてみたい、その地の文化に触れてみたい、自分の英語を試してみたいと思い、応募しました。

**抱負** 少しでも見方、考え方が広がってほしい。英語で会話することの楽しさ、英語を学ぶことの大切さを、子どもたちに聞かれたときに応えられるようになってほしい。アメリカに行って刺激を与えてくれるようなものに出会って自分を成長させたい。



**内野 祥宏 19 歳/文京学院大学**

**参加理由**：将来、インターナショナルな仕事をするための経験、能力の向上のため、「人と人とのつながり」に興味を抱いた、市を代表して両市の関係に携わりたかったため

**抱負**：やりたいこと、すべきことに尻込みせず、積極的に行動的になりたい。本当に自分が持つべきものを見つきたい。「人と人とのつながり」を知り、周りとうまく連帯し協力しタスクをこなしていけるようになりたい。



**今井 あかね 20 歳/中央大学**

**参加理由** ただ留学するだけではなく、サークルやアルバイト以外に課外活動として自分が成長できる場所を求めてこの派遣プログラムを選びました。

**抱負** この2週間の滞在が自分のためだけではなく、何年間にも渡る東村山とインディペンデンスとの友好関係をより良いものにしていけるよう、両市についてお互いの理解を深めることや、積極的な交流を心がけたいと思います。



**引率者 福留 美樹子 (英語講師)**

私が引率者として応募した動機は三つありました。第一に姉妹都市交流が優れた活動であることを、ホストファミリーを二回引き受けたことから、経験上知っていたからです。また仕事上、日頃から英語教室や大学で学生との関わりがあり、対象年齢の学生のことをよく理解できるという利点もありました。第三に外国の方に日本語を教えるボランティア活動に関わっているので、外国の方との交流の意義について理解できていたからです。

次にかかわりですが、自分を中心に置くのではなく、国際交流委員会の思いに応える事や団員の助けになる事を大事にしました。出発前から、引率者として、団長として責任を果たすというプレッシャーはありました。でもおかげさまで、インディペンデンス市ではホストファミリーにも委員会の方にもよくして頂き、想像以上の貴重な楽しい時間を過ごす事ができました。15年前ホストチャイルドをした女性が、飛行機に乗って15年ぶりにお母様と共に会いにきて下さったこと、12年前ホストファミリーをしたご夫婦が、私のホストファミリーも一緒に自宅に招いて下さってバーベキューをご馳走して下さいましたこと、嬉しい思い出ができました。また自分の子供の年齢と同じご夫婦が、引率者としての責任を果たせるよう私の体調にも気を使って下さった優しさには、日本へ来訪の際におもてなしをして返していこうと思います。

最後に、帰国後、市長晩餐会での団員のスピーチ集、報告会でのスライドショー、イベントごとにまとめた写真、引率者日誌等を次の派遣団や引率者のためにデータベース化して、派遣委員会に残す事ができたことも一つの前進だと思います。これからもこの素晴らしい活動がさらに発展していく事を願っております。

# 滞在スケジュール

## 8月5日 出発日

3月に33期派遣生として任命されてから約4か月を経て、いよいよインディペンデンスへの出発の日を迎えました。朝市民センターに集合して壮行会を開いていただきました。渡部市長をはじめとして市議会議員の方々、友好協会の方々、保護者の方々などが私たちの出発のために集まってくださり、改めて多くの方に支えられて成り立っているのだと自覚することができました。壮行会では派遣生ひとりひとりがインディペンデンスへ行くにあたっての抱負を述べました。壮行会の最後にはスペシャルゲストとしてひがっしーも登場してくれて盛り上げてくれました。

家族に別れを告げて、バスに乗り込みました。車内ではどらやき、サンドイッチなどたくさんの差し入れを頂きました。出発にあたって胸の高まりを抑えられない私たちは車内ですでにハイテンション！！たくさん話して、写真を撮って過ごしていました。

成田空港に到着するとお見送りに来てくださっていた派遣委員の方とはお別れして、いよいよ出発です。約10時間のフライトを経て、ミネアポリス空港に到着しました。厳重な入国検査やドルを使った初めての買い物などをしてアメリカに着いたことを実感しました。予定より少し遅れてカンザスシティ行きの飛行機が出発しました。機内では **retirement home** で渡すカードを書いています。

カンザスシティ空港に着くと他の派遣生と別れる前にみんなで写真を撮りました。ゲートを出ると派遣生それぞれのネームカードを持って歓迎してくれているホストファミリーの姿が見えて感激しました！！派遣生はホストファミリーとついでに直面して、それぞれの家へと帰って行きました。



## 8月6日 Welcome party

この日はインディペンデンスの姉妹都市委員会の方々が Welcome party を開いてくれました。このパーティーでは、派遣団員それぞれのホストファミリー全員が集まって、食事をしたりゲームをしたりしました。食事はホストファミリーや協会の方々が用意してくださっていて、とても美味しかったです。そして、食事をしながらそれぞれホストファミリーと会話をしていました。

その後みんなで英語と日本語を交えながらビンゴゲームをしたり、ホストファミリー紹介、記念撮影などをして午後を過ごしました。

私たち派遣団員はアメリカに着いてから全員で集まる最初の日だったのでみんなに会うことができホッとした感じでした。





## 8月8日 KANSAS CITY

それぞれのファミリーデーを過ごし、休み明けから本格的に派遣団員としての活動が始まりました。この日はカンザスシティを観光しました。朝7時にゲリーさんの宅に集合し、パンやマフィン、スナック、フルーツ、ヨーグルトやコットンキャンディー味の牛乳などの朝食をいただいた後に、庭で写真撮影をしました。ゲリーさんの宅の庭には、何冊かの本や絵本が入っている小さなポストがあり、近隣の方々が利用する小さな図書館となっているそうです。その後、車でカンザスシティにある The Roasterie というコーヒー工場へ向かいました。この工場は第三国の支援を行っており、コスタリカに学校を作っているため少し高めの価格設定になっています。コーヒーが完成されるまでの過程や、ブレンドについて、美味しいコーヒーのいれ方を学び、試飲もさせていただきました。30秒蒸らし、その後竜巻の形になるように反時計回りに2分半かけていれると美味しく頂くことができます。次に、Arabia Steamboat Museumを見学しました。ミズーリ川に沈んだ汽船は長い間泥の中に埋められていました。その中にあった食器、靴、ボタン等色々なものは空気に触れることがなかったので保存状態が良く、綺麗に洗浄され、この博物館に保存されています。ここで一度解散し、メキシカン料理や、ブラジル料理等、それぞれ昼食を取り、再び集合しました。その後、Lewis and Clark Overlook のモニュメントを見に行き、その歴史について学びました。本棚の様なデザインの駐車場の前で記念撮影し、あの有名なウォルトディズニーがミッキーマウスを思いついた場所と言われている Kansas city art institute でモニュメント探しをしました。ここにある蜘蛛のモニュメントは東京の六本木にある物と兄弟だそうです。5時にゲリーさん宅にて解散。この日はカンザスシティの歴史を中心に学び、この地域にとって重要なことを知り、とても勉強になりました。



## 8月9日 Horseback riding

朝8時にマクドナルドで集合し、みんなで朝ごはんを食べた後、目的地の **Big River Ranch** に向かいました。1時間ほどのドライブの間には車窓からトウモロコシ畑などののどかな風景を楽しむことができました。

到着後赤か青のバンダナを頂いて、最初に乗馬をするグループとランチの準備をするグループの2つに分かれました。私は後半に乗馬をするグループだったので、まずは昼食のビーフシチューづくりのお手伝いをしました。外で火を起こして、小枝などを集めたり扇子であおいだりして火を強めた後、室内で野菜の下ごしらえをしました。準備が終わった後は前半組が帰ってくるまで草原や青空をバックに写真を撮ったり、話したりして自由に過ごしました。

前半組と交代していよいよ乗馬体験！！馬のコントロールの仕方を教えてもらった後乗馬コースへ向かいました。私は大きな馬に乗るのは初めてだったので正直不安でした。私の不安が馬の **Sugar** ちゃんにも通じてしまったのか、乗った瞬間から走り出してしまったので農場の方に先導していただきました。農場の中を1時間半ほどかけて進みました。豆畑や池が広がる広大な自然の中を馬に乗って進むのはとても気持ちがよかったです。

私たちが乗馬をしている間、前半組のみんなはアップルパイとチェリーパイを作ってくれました。りんごはハイテクな機械で皮をむいて輪切りにしたそうです。昼食のパンの準備もしてくれました。

乗馬体験が終わった後、昼食をとりました。全員で「いただきます」をして、みんなで作ったビーフシチューやパイなどを食べました。自然の中で食事をしているような感じで新鮮でした。手作りの食事とても美味しかったです。

昼食後には派遣団員全員が乗るような大きな車の荷台に乗って農場を散策しました。風を切りながら青い空と緑が広がる豊かな自然を満喫できました。

写真撮影を済ませ、農場を出発しました。1日自然の中で過ごして疲れていたようで、帰りの車の中ではみんなぐっすり眠っていました。



## 8月10日 Worlds of fun & Oceans of fun

私たちは、現地に着くと昼食を食べる場所や迷った際に集まる場所などを伝えられ、いくつかのグループに分かれ自由にテーマパーク内を移動することになりました。その日は市内の学校の長期休暇最終日だったのにも関わらず規模の大きなテーマパークなために人気は高く、多くの子供や家族で賑わっていました。この日は気温も30度を超え、紫外線も肌がピリピリと感じるほど強く、水分補給がマストになりますが、テーマパーク内の飲み物はどれも高価でした。乗り物はどれも日本ではあまり味わうことのできないような絶叫マシンがほとんどでした。

Worlds of fun にて日本との違いを感じる点が2点ありました。1つ目は、屋外トイレに「防竜巻構造」を示す竜巻の絵と文が壁に貼られていました。日本では竜巻を身近なものとして捉えることはできませんが、人の命を奪いかねないような存在を身近に感じながら日々生活している人がいることにショックを受けました。しかし日本にもそれに似たことがあります。昔から日本人は地震という恐怖を近くに感じながら生活してきました。アメリカの「防竜巻構造」は日本の「耐震構造」のようなものなのでしょう。2つ目は、昼食時にレストランのカウンターで注文している途中でいきなり店員が私の名前を聞いてきたのです。慣れない状況に私はぼかんとしてしまいました。注文された品ができた際名前を呼び、出来上がったことを知らせるといった単純な理由でしたが、日本とは異なるスタイルに動揺してしまいました。

Oceans of fun においても、ウォータースライダーの種類の高さや波のプールの波の高さやプールの深さなど日本とのスケールの違いにショックを受けつつも新しい体験に心が弾みました。

Worlds of fun と Oceans of fun はテーマパークでただ楽しむ場所ですが、そんな場所でさえも日本との違いやカルチャーショックを受けるのだなと感じました。



## 8月11日 ショッピング&ロイヤルズ観戦

この日は、朝ショッピングモールが開店するまで時間があつたので、「Five Below」という、とてもリーズナブルで品揃えが豊富なお店でお買い物をしました。そこでは香水やコスメ、カバン、Tシャツなど日本では1000円を超えてしまう物が全て5ドル以下という低コストで買うことができました。中でもファンデーションが3ドルで売られていたことは驚きでした。そしてその後、「Independence Center」というショッピングモールに行きました。「PINK」「Macy's」「Bath & Bodyworks」などといった外国にしかないブランドものから、「claire's」「Forever」などの日本でも馴染みのブランドまで幅広く扱っていました。PINKは女の子向けの可愛い服や雑貨が揃えられており店内もオシャレなつくりになっていました。私はそこで洋服やコスメを見たあと、Bath & Bodyworksで、日本に帰った時のお土産としてのハンドジェルと、最終日にホストファミリーに渡すプレゼントのためのバスセットを買いました。このお店はバス&ボディ用品がたくさんあるため、お土産やギフト選びにとっても最適でした。また Itty Bittys というお店にはミッキーやスヌーピーを始めとする可愛いキャラクターのキーホルダーや種類豊富なレターセットがあり品揃えがとても充実していました。ショッピングモール内のいくつかのお店では、会計時に店員さんがおまけで1品付けてくれることが多々あり、現地の方はとてもサービス精神が旺盛だと感じました。お買い物のあとスターバックスのダブルチョコを飲んだのですが、甘くてボリュームがありとても美味しかったです！そして夜はアメリカンリーグ所属のプロ野球チーム「ロイヤルズ」の観戦に行きました。ホストファミリーからロイヤルズのユニフォームを貰い皆でそれを着て一緒に観戦していました。アメリカの野球場はとても広く、大きな滝やメリーゴーランドがあつたことに衝撃を受けました。次の日朝早かつたため途中で帰ってしまいましたが、帰る前にロイヤルズの記念館に入り有名な選手やロイヤルズの歴史についても学ぶことができ有意義な時間を過ごすことができました。



## 8月12日 School day

8日目の School day は、高校と小学校に行きました。午前中は高校に行き、午後は小学校に行きました。

午前中の高校では、朝7時15分に **Christman High School** に集合し、その後高校の授業を受けました。他のメンバーは、ホストファミリーとは回らず、学校の生徒と授業を受けました。私は、ホストシスターと一緒に回りました。授業は、1時間45分で、午前中は5つの授業を受けました。私は、授業を受けるのではなく学校の中を見て回ると思っていたので、学校についてすぐに教室に案内されて、すごく緊張しました。当たり前ですが、全てが英語で、周りの生徒と同じように授業を受けたので、とても貴重な経験ができたと思いました。その後、高校でお昼を食べました。たくさんメニューがあって、日本ではないようなアメリカらしいものばかりでした。美味しかったです。

午後は、**Glendale School** に行きました。学校に入った瞬間から、生徒みんなに歓迎されて、とても嬉しかったです。最初に、1人につき2人生徒がついてくれて、学校内を案内してくれました。授業に少しだけお邪魔して、生徒と会話をしたり、質問に答えたり、日本について話したりしました。みんな、質問が止まらないくらい興味津々で、日本に興味を持ってきているんだなど、嬉しくなりました。そして、小学校ではパフォーマンスをしました。アメリカに来て、1回目のパフォーマンスだったので、みんなも私も緊張していましたが、生徒や先生方、見に来てくださった方に喜んでもらえました。次のパフォーマンスへの自信につながりました。たくさんの人と出会えて、みんなの暖かさや、愛の大きさを感じました。



8月15日

盛り沢山な一日



今日は朝から盛りだくさんの一日でした。  
祝山の出会いがあり、多くの方の協力により訪問ができました。アイスクリームパーティーでは大盛り上がり！

スケジュール

市長表敬訪問	.....	夕方～
警察署	.....	アイスクリームパーティー
消防署	.....	パフォーマンス披露！！！！
商工会議所	.....	



Independence  
Mayor Eileen Weir



エレガント、そして力強い  
市長と名刺交換！



警察署にて！女性警察官も  
たくさん活躍しています。



パトカーに乗せてもらえま  
した。



消防署 重たい防火用の制  
服を着せていただきました



商工会議所にて

アイスクリームソーシャルでは色々な方  
たちが来てくれ、最高のパフォー  
マンスを披露することができました。

日本の文化を少しでもお伝えできていれ  
ば嬉しいです。

この日に出会った方に感謝！

インディペンデンスは女性が多く活躍し  
ていて素晴らしいと思いました。



## 8月16日 SERVICE PROJECT & LAKE DAY

この日は朝9時半に老人ホームに集合し、老人ホームにいる方々に朝から私たちの空手のパフォーマンスを披露しました。そのあと、パン等の軽食が用意され、お年寄りの方々とのお食事会のようなものを行いました。そのときに私たちが事前に用意をした“扇子”をみなさんに配りました。

11時ごろに老人ホームを出発し、車で湖に向かいました。お昼ご飯を湖の近くで食べました。そこで食べたトルティーヤみたいなのがとてもおいしかったです。アクティビティーの前には鯉にえさをあげることができます。尋常じゃない数の鯉が口をこちらに向けてきます。午後からは湖でアクティビティーを行いました。10人の団員を最初にチュービングをするグループと湖で泳ぐグループの2組に分け、ボートに乗り込みました。私は最初にチュービングをするグループになりました。チュービングとは右の写真のようなものです。この状態で思いっきりボートに引っ張られます。体が浮きます。落ちます。腕が筋肉痛になります。でもとても楽しかったです。チュービングをやっていなくてもボートがかなりの勢いで動くので、それを楽しむこともできます。



なので、やってもやっていなくてもつまらなくなりませんでした。全員やったら次のグループと交代します。ほかのグループがチュービングをやっているとき私たちは湖に飛び込むということをしていました。決して水がきれいとは言えないですが、危ない生き物は住んでいないようなので楽しむことが出来ました。そのあとは、みんなで一つのボートに乗り、ウェイクボードとニーボードをやらせてもらいました。これは時間の関係上全員が経験することはできませんでしたが、見ているだけでも楽しめました。天気も良く、特別大きな怪我をする人もいませんでした。

私にとっては湖でのアクティビティーが人生で初だったので、とても良い思い出になりました。



## 8月17日 Science & Nature day



▲昔の美容室を再現する建物(牧場)



▲昔の学校を再現する建物(牧場)



▲昔の鍛冶屋 (牧場)

この日には牧場のような所と博物館を訪れました。牧場では昔の学校を再現した建物や鳥小屋で話を聞いたり、子ヤギにミルクをやったり魚を釣ったりしました。魚釣りは昔らしくミミズを餌として行いました。その牧場には開拓時代の家などの昔を再現する施設がたくさんありました。その中には鍛冶屋や美容室がありました。

私たちはこの一日で生物や自然、開拓時代のことなどたくさんのことを学びました。特に生き物と触れ合ったことや、恐竜のクイズに答えたことは貴重な経験となりました。また日本よりもアメリカのほうが自然との距離が近いと感じたので私たちも自然を大切に、そのうえで現代の科学技術も大切にしていくべきだと感じました。

博物館ではヒトの脳や身体、虫や恐竜について学びました。ヒトの脳の仕組みや身体への指令についての話は私たちが知らないことも多くとても興味深い話でした。また博物館の入り口近くにスクリーンがあり、恐竜についてのクイズに答えると、オリジナルの恐竜を作り大きなテレビに映し出せるゲームのようなものも面白かったです。



## 8月18日 Independence Culture Day

とうとうインディペンデンス市で過ごす最後の日となってしまいました。Garyさんのお宅でゆっくり朝食を楽しんだ後、Vaile Mansion という豪邸に行きました。レンガ造りの美しい外形だけでなく、中に入ってもびっくり、シャンデリアや立派な家具、美しい模様のカーペットなど、思わずため息をついてしまうほど何もかもが豪華な建物でした。家の持ち主の話や当時の状況、特別なつくりなど、スタッフの方の丁寧な解説に派遣生は聞き入っていました。次に向かったのは、トルーマン博物館です。インディペンデンスはトルーマン大統領が育ったところであり、博物館では、当時のホワイトハウスの一部屋の様子や彼が関わった出来事、当時の状況などを展示物を通して知ることができました。スタッフの方は私たちが日本から来たということで、トルーマンが指示した日本への原爆投下について詳しく説明してくださいました。以前から、日本とアメリカの原爆投下に対する認識の違いは聞いていましたが、初めて現地の方のお話を生で聞き大きな衝撃を受けました。解説員の方が最後におっしゃっていた、この歴史をどう受け止め、未来をどうしていくかはあなた次第であるという言葉をお忘れず、一部の意見に偏るのではなく、自分で事実を調べ知り考えていこうと思いました。午後は、Community of Christ Temple という空に向かって伸びていくような素敵な建物の中で、世界有数であるという立派なパイプオルガンの演奏を聴きました。日本庭園やキリストにまつわる作品、色とりどりのステンドグラス、地面に刻まれた大きな世界地図など、興味深いものを数多く見ることができました。最後に Community of Auditorium という、イベントや集まり、会議が行われる、歴史ある建物を訪れました。

6時からはホストファミリーや今年日本に来た派遣生も出席する、市長との晩餐会でした。派遣生はこの日のためにスピーチを一生懸命考えました。とても緊張しましたが、ホストファミリーや市長さん、姉妹都市交流委員会の方々への感謝の気持ちは伝えられたのではないかと思います。インディペンデンスで過ごす最後の夜であったため、最後はみんなで写真をとり、わいわい話し、晩餐会を終えました。次の日の朝4時出発に備え、早く寝る、というわけにもいかず、必死で荷物整理をしたのはおそらく私だけではなかったでしょう。



- 1 5 -



## 8月19日、20日 帰国日

朝早いフライトだったので、早朝3時半頃には家を出発して、カンザスシティ空港に向かいました。出発の時よりも明らかに増えた荷物を抱えながら、ホストファミリーと共に次々に派遣生が到着しました。ホストファミリーに手伝ってもらいながらオンラインチェックインや荷物の預け入れを済ませ、おしゃべりをしたり写真を撮ったりして、時間が許す限り、ホストファミリーとの最後のひとときを過ごしました。出発時間が近付いてくると共に別れがつかなくなってきて、私も含め多くの派遣生が泣いてしまいました。「また絶対帰ってくる」と約束して、最後は笑顔で手を振ってホストファミリーとお別れをしました。この滞在を無事に、たくさんの思い出と共に終えられるのはホストファミリーの皆さんのおかげです。本当にありがとうございました！！

ミネアポリスの空港に着くとまたもや厳重なセキュリティチェック！！ジャムの瓶が手荷物検査にひっかかったり、パスポートを紛失したり様々なハプニングはありましたが、何とか全員搭乗ゲートへたどり着くことができました。ミネアポリスの空港ではさっきまで泣いていたのは嘘のようにはしゃいで、たくさんのお土産を買っていました。ミネアポリスからはまた長いフライトでしたが、報告書をまとめたり写真を見ながら思い出に浸ったり、思い思いに時間を過ごしていました。成田空港に着くと日本語の表示があったり、ぼーっとしていても周りの会話が聞こえてきたりして日本に帰ってきたことを実感しました。到着ゲートを抜けるとすぐに派遣委員会の皆さんが出迎えてくださっていました。委員会の皆さんを見つけた瞬間、自然と笑みがこぼれてきたことは、私たちが2週間の滞在にとっても満足したことを表していると思います。

バスで東村山市民センターに到着すると、友好協会の方々や保護者の方々など多くの方が迎えてくださいました。市民センターで帰国の挨拶をした後それぞれの家に帰りました。



## パフォーマンス

今年のパフォーマンスは日本文化の一角である「空手」を披露しました。練習期間は約2ヶ月間と短かったため、見本となる動画を各自が家で見てきて練習日に動きを合わせる形にしました。しかし静かな中でやる空手は合わせることがとても難しいという難点や、現地の方から所要時間を長くして欲しいというご意見をもらい改善しなくてはならない点など、出発の1か月前に様々な壁に当たりました。そこで動きを合わせる合図として手拍子を加える、BGMや掛け声を入れてメリハリをつける、前半と後半それぞれ3人バージョンと5人バージョン2回ずつ披露し同じものを違った角度で見せる等といった工夫をしました。練習中は大変なこともありましたがメンバーで必死に練習した結果、パフォーマンス初日、小学校で披露した空手は大盛況でとても喜んでもらえました。その後もリクエストが4回に増え最後に披露したアイスクリームソーシャルでは、市長や委員の方からもお褒めの言葉を頂くことができました。



## 学生親善訪問派遣団の引率を終えて 「一期一会」

第33期派遣団引率者 福留 美樹子

派遣団一同、一期一会の充実した貴重な思い出を得ることができたことは、多くの皆様の貴重なお時間とご尽力のおかげと心より感謝申し上げます。渡部市長をはじめとする市関係者の皆様、岩瀬会長をはじめとする国際交流委員会の皆様、特に飯笹委員長はじめ派遣委員会の皆様にはひときわお世話になりました。インディペンデンス市では想像を超えるおもてなしを頂き、感激する毎日でした。どうもありがとうございました。

さて今回私には引率者として、もうひとつは団長として、二つの役割がありました。そして一期一会をこの訪問のテーマとすることにしました。

まず引率者としては、10人の団員の心身における健康、安全面に注意を払い、団員が十分に実力を発揮できるよう支援してきました。健康面に関しては、誰も体調不良をおこさず、また団員が皆仲良くでき、いつも楽しそうに過ごしていたので安心でした。また安全面に関しては、一緒に行動を共にしてくれた委員会やホストファミリーの方にしっかりとサポートして頂きました。その他にも、引率者の仕事として、団員への連絡、トラブルの解決などがありました。団員は積極的に交流を図り、さらなる友好と親睦に貢献し、インディペンデンス市の皆様から多くのおほめの言葉を頂き、「来てくれて良かった。」と言ってもらいました。

また二つ目の役割の団長としては、両市のさらなる交流・親善に貢献できるように、歓迎会では岩瀬会長の一期一会のメッセージを、そして市長晩餐会では渡部市長のインディペンデンス市への感謝のメッセージを含めてスピーチを行いました。また、インディペンデンス市の委員会の方のリクエストにできるだけ応えていくことが大事と考えておりましたので、移動の際には案内して下さる方の助手席に座らせて頂き、色々と委員会の方の希望などを伺いながら行動するように心がけました。

又姉妹都市委員会のご好意で、Hinkelさんのお宅にて日本文化紹介として多くの皆様の前で茶道をさせて頂きました。お子様やホストファミリーにもお茶を実際に点でて頂き、交流を図りました。なにより一期一会(Every Moment Counts)の思いに賛同して下さった Jeannae 委員長がグレンデール小学校に「一期一会」のポスターを学校中に張ってくださり、又市長晩さん会の式次第にも「一期一会」の言葉をのせて下さった事が、なによりも嬉しかったです。

最後になりますが、一緒に頑張ってくれた10人の団員に、そしてインディペンデンス市で支えて下さったホストファミリーの Scott と Miranda に、また私を応援してくれた自分の家族に、心からの感謝を申し上げます。

# 滞在を終えて

## 感想

早野 佳奈

出発の日、私は楽しみよりも不安が勝っていました。長いフライト、飛行機の乗り換え、向こうについてから英語が理解できるか、様々な不安がありました。でもそんな事は心配する必要はありませんでした。いつも周りには団員、団長がいました。そしてホストファミリーにあった瞬間に私の不安はすべて消えました。ホストファミリーはとても暖かく私を迎えてくれました。それから2週間は本当にあつという間でした。ホストファミリーはご飯の度にこれはこうして食べるんだよ、何ていう名前の料理だよ、と食事のことだけでたくさんのことを教わりました。あるFamilyDayにはUnionStationというところへ連れていかけてもらいました。とても綺麗な場所で「駅」だけでなくたくさんの施設が設けられていました。駅の周りには噴水もありました。私たちはそこで映画を見てレストランでお昼ご飯を食べました。その後一度家に戻ると私のホストマザーの妹の子供のBirthdayPartyに行きました。料理がとても美味しかったのを覚えています。アメリカではほとんどの日が団員と一緒にでした。特に私の印象に残っているのはアイスクリームソーシャルです。アイスクリームソーシャルでの空手パフォーマンスが一番緊張しました。でも、パフォーマンスのあとは自分のホストファミリーだけでなく、別のホストファミリーの人も私たちの空手を褒めてくれました。たくさん練習して自信を持って披露して良かったと思います。そしてひとつ私が考えていたこととは全く違ったことがありました。それは日曜日の教会での礼拝です。私は静かに話を聞いて賛美歌を歌うというとても静かで真剣な雰囲気のものだと思っていました。しかし、礼拝の時間が始まるとまずは周りの人と「おはよう」と挨拶をし、全員でたくさんの歌を歌い、牧師さんの話に笑ったり、すごく明るくてオープンな雰囲気でした。現地で体験できたからこそ私の考え方は変わりました。私は今回アメリカに行くことが出来て本当に幸せだと思います。まずアメリカへ行ってたくさん経験ができたのは東村山国際友好協会の皆さんや家族のおかげです。また、アメリカで楽しい充実した思い出を作れたのはインディペンデンス市の委員の皆さん、団員や団長、何よりホストファミリーをはじめとするインディペンデンス市の方々のおかげです。この感謝を忘れずにこの先も続く団の活動に取り組み、今回の滞りで経験したことを活かして自分の目標に向かって進んでいきたいと思っています。私はこれからもっと英語の勉強をし、外国の文化を学びたいと思っています。また、他の言語にも挑戦してみたいです。もう一度アメリカへ行ってホストファミリーに会ったり、彼らが日本に来てくれた時に日本のことを教えられるようにまずは高校生として学習に一生懸命に取り組みたいです。そして日本での生活の中でアメリカとは違ったところを意識して探してみたいと思っています。

# Independence

2016年8月5日～20日

花岡 真亜珠 Maaju Hanaoka

## 感謝込めて:

この報告書を手に行っている方々に感謝しております。

東村山市、インディペンデンス市の友好の歴史の中に私が参加できた事、このような機会を与えてくださりありがとうございました。

Thanks for JSCC Committee.



インディペンデンスの委員会

LOVEWELL さん

Thanks for your love

## 感謝をこめて。

一言で表すと、インディペンデンス市での生活は私にとって多くの事を学び経験できた、有意義な2週間でした。

私が特に感じた3点を報告致します。

1つ目はsurpriseです。

人はサプライズがあってこそ、感動しそして心を動かされる。

それはその人の喜ぶ顔を想像して考え準備をしてくれる気持ちがあるからだと思います。

私のホストファミリーは家族で手作りのwelcomeボードを作成してくれました。これを見た瞬間どれだけの時間を費やして作成してくれたのかなあ？

こんなに歓迎してくれて嬉しい。という感謝の念でした。



私が用意したsurpriseはホストファミリーに日本食を作るときに猫とパンダの形のキャラ弁をつくりお風呂入っている様な感じでカレーを盛り付けました。



Facebookでのアクセスも多く喜んでもらえたようです。

2つ目はmind connection

人と人とのつながり。継続する繋がり！日本に住んでいる友人でさえも、例えば小学校が一緒だった友人でも連絡をとらなくなってしまう。なかなか会わずにして交流を読けるのは難しいのですがその中で、この姉妹都市交流が長く続いています。それは本当に素晴らしいと事だと思いました。やはり感謝の交流、気持ちの交流をしているからだと思うのです。

私の母がインディペンデンスに行った経験があるので母のホームステイ家族やインディペンデンスの委員会の人達が私に話しかけてくれ、皆私を見た途端うれし泣きをしてくれました。私もなぜか懐かしく、うれしくて泣いてしまいました。

3つ目は

心のつながりです

妹が恐竜のぬいぐるみをプレゼントしてくれました。

これは恐竜の映画をアメリカで見たのですがどんなにはなれていても家族だよという映画の内容でした。

妹が日本に帰っても家族だよと言ってくれたものです。妹たちは反対に日本語を勉強することを決めたそうです。

お互いの国をもっと知りたい、もっとお互いの事を分かり合いたい

もっと話して心を通じ合わせたいとおもいました。必ず会いに行きたいと思います。



## 滞在を終えての感想

宮崎 奏

僕はアメリカで2週間を過ごして感じたことがいくつかありました。

1つ目はとてもフレンドリーな方々が多かったことです。ホストファミリーの知り合いもとても気さくに話しかけてくれる方々がとても多くてビックリしました！初対面とか関係なしにハグなどスキンシップをしてくれました。そしてメンタルも強く自分のスタイルなど全く気にせず周りの目を気にしないで自分を貫いている人を多く見ました。これは学んで見習いたいです。

最後は食べ物に関する考えです。日本では基本出された料理や食材は残さず食べるという考え方ですが、アメリカではお店などで出された料理などが自分に合わない则一口食べてすぐ捨てたりしていてとても衝撃を受けました。日本では自分に合わない料理でも家族の誰かが食べるけれど、それすらなくて驚きでした。

自分の考えや親切さに学ぶことがあり、価値観が変わり広い視野が持てるようになったので、アメリカに行っても良かったと思いました。

## 感想

平野 李佳

私は今回のプログラムに参加したことで現地で沢山の方々と出会う事ができました。大好きなホストファミリー、6月に来日した派遣団員、以前このプログラムで東村山を訪れたことのある方々、そして現地で私達の受け入れを担当して下さっている委員の皆様。全ての出会いは私にとって宝物です。特に私のホストファミリーは私に家族愛について教えてくれました。常に一人一人が他のメンバーのことを気づかい、大切に思い合う事。帰国の2日前に泣いてしまった私を見たホストファザーは、”辛い時には泣いていいんだよ、でもりかはタフに、強くなりなさい”と教えてくれました。私は性格的にもすぐ泣く事が多いのですが、それはお見通しだったのかなぁと思い、恥ずかしくなり、とても心に響きました。この先何かあっても、この言葉を胸に強く、成長出来る人になろうと思います。私はアメリカに行く前に目標を立てました。それは、自分から話しかけ、話題を振り、交流を図る事です。私は高校時代に語学研修でニュージーランドへ2週間ステイした際に、ホストファミリーが沢山話しかけてくれたのにも関わらず、伝えたいことを十分に伝える事が出来ず、悔しい思いをしました。その為、今回は話題を自分から振る事で話す機会をたくさん作ろうと思い、積極的に話すことを意識しながら2週間を過ごしました。その結果、以前のステイよりも多くの人と交流でき、自分が少し主体的に行動できたと実感しました。しかし今までの事前研修会での自分の行動を振り返ると、”自分の意見を言えていない事が多々あった”という事に気付きました。”人生で様々な事が起こった時、その時々はどう対応するかでその先の人生は変わるという事”と”その場の空気に流されるのではなく、自分の意見は言うべき時にきちんと言う”という事が大切だと飯笹さんが教えて下さった時、私は人と関わる際に大切な事は、”主体性を持って関わろうとする力”だということに気がつきました。私は大学で子どもの主体性を育てるにはどうすべきかについて散々学んでいます。しかし、自分と関連付けて考えることができていませんでした。日本に帰ってからも、主体性を持って人と関わる事、雰囲気流されず意見をきちんと述べるという事。これは今回のプログラムに参加したことにより、得られた自分への課題です。渡辺市長、国際友好協会の委員の皆様、会員の皆様、私にこのような素晴らしい機会を与えて下さり、本当にありがとうございます。派遣団員として無事にこの活動を終える事ができました。また、この先の活動も精一杯努めさせていただきます。



## イ市滞在を終えて

尾寄 凜菜

私は滞在中の目標として2点掲げていました。1点目は自分で自分のできることを制限せずに様々なことに挑戦することでした。アメリカの方と関わってみてまず驚いたことは、アメリカでは周りの人の目をあまり気にしないで自分の行動を自分がしたいかしたくないかを軸にして決めているということです。日本人なら二度見してしまいそうなくらい個性的な格好の人を見かけるなど驚くこともありましたが、アメリカ人は周りに流されず自分を貫けるだけの自信と自分の行動に対する責任を持っているのということに気づかされました。このことに気づいてからは「この滞在中は自分のしたいことをしよう」と意識して行動するようになりました。そのように意識したからかこの滞在中に後悔することは少なかったように思います。自分の行動に誇りと責任を持つ人々の姿を思い出し、様々な挑戦を通して今後も自分自身を成長させたいと強く思いました。

私達の最大の目的は親善訪問であることを常に意識して、イ市で出会う全ての人と誠実に向き合い、両市の友好関係の深化に務めることを2つ目の目標にしていました。出会った人に日本や東村山市のことを紹介したり、話を真剣に聞いてアメリカやイ市のことを学んだり、感謝の言葉を伝えたり、小さな心がけではありますが、より深い関係を築くきっかけになれば嬉しいです。この心がけから気づいたことは、人と人とのつながりは人種や言語、文化の違いを超えるものだということです。この滞在中で出会った方は皆さん親切で、本物の家族のように私を温かく迎えてくれました。自分が誠意をもって接すれば、たとえ英語がうまく話せなくても、文化や考え方が違ったとしても、相手も誠意をもって自分と向き合ってくれるということを現地で過ごした一瞬一瞬から学ぶことができました。この素晴らしい経験は、様々なバックグラウンドを持つ人々と関わる中で自分自身を高めたいと思っている私にとって大きな意味を持つと思います。今後、自分とは違う文化の中で過ごしてきた人と出会うことが増えると思いますが、どんな人と出会っても壁を作るのではなく、相手に飛び込んでいくくらい積極的に、そして誠実に向き合っていきたいと思います。

この滞在中で得られたことは「楽しい思い出」だけではなく、「生きていく上で糧となるような大事な発見」と「今後も大切にしていきたい多くの方々との出会い」でした。このような宝物を私にもたらしてくれた姉妹都市交流プログラムに携わって下さったすべての人に本当に感謝しています。そして人と人とのつながりの中で友好関係の輪が広がっていき、深まっていきこれからもずっと続いていくことを心より願っています。

## 2週間の滞在を通して変わったこと

加藤 美樹

私は、アメリカに行く前は内気な性格で、あまり積極的な方ではありませんでした。この派遣プログラムを通して、何か変われるもの、得られるものがあればいいなと思っていました。アメリカから帰ってきて、みんなから、いい意味で変わったねと言われるようになりたいと思っていました。

私がアメリカに行ってみて感じたことは、愛の大きさ、温かさです。たった2週間、たった1日と最初は思っていました。でも実際そんなことなく、初対面でも暖かく迎えてくれて、優しくしてくれて、本当の家族のように接してくれました。とても嬉しかったです。私もこうやって、誰かに優しくしたいと思ったし、初対面でも関係なしに仲良くして、一つ一つの出会いを大切にしていきたいと思いました。そして、もう一つ思ったことは、自分の気持ちを相手にちゃんと伝えるということです。私は心配性で内気な性格だったので、そういうところが自分には欠けていると思っていましたし、直したいところでした。アメリカでの滞を通して、しっかりと自分の思っていることを伝えるということを学べたと同時に、実際にもしっかりと気持ちを言えるようになってきたなと思います。やるかやらないかの選択があるときに、やって後悔するのと、やらずに後悔するのだったら、絶対にやって後悔したほうがいい。まずやってみないとわからないし、どうせだったらやった方がいい！って、私は思います。なのでこれからは、どんどん自分の気持ちを相手に伝えて、もっと多くのコミュニケーションをとって、いろんな人と関わり仲良くなっていきたいなと思います。そしてこの経験を通して、自分の英語の力をもっと伸ばしていきたいと強く思いました。本当はもっとたくさん言いたかったことがあったけれど、なかなか英語が出でなくて言えなかったこともたくさんありました。これからはもっと英語を頑張って、そして、またホストファミリーの所に帰って、もっとたくさんいろんなことを話したいと思います。

この2週間で、たくさんのことを学んでたくさんのことを得ることができました。この2週間のことは一生忘れない思い出で、たくさん得たことを、これからの生活に生かしていけたらなと思います。

## 滞在後の感想

椎谷 日菜

インディペンデンスで過ごした2週間は本当にあっという間でした。人種、価値観、言語が異なるアメリカでは、毎日が驚きと発見にあふれ、多くのことを学びました。私たちの訪問を支え、貴重な機会を与えてくださったすべての方々に心から感謝しています。

この2週間で強く感じたのは人と人とのつながりの大切さです。ホストファミリーの中には何年も東村山市の派遣生を受け入れている家族がいたり、去年の派遣団のメンバーが様々なイベントに顔を出してくれたり、ホストマザーといろいろな所に行きたくさんの人が声をかけてくれたり、多くの人たちが私たちを歓迎してくれました。手厚すぎるおもてなしに感謝の気持ちと申し訳なさを感じつつ、どうしてここまでしてくれるのだろうかと考えた時、たどり着いたのがこのつながりです。33期生としてインディペンデンスに行くのは一生で一度の事です、約30年前から始まった姉妹都市交流が続いてきたのは自分たちがしてもらったのだから次は自分がしてあげる方へ、最高の思い出を派遣生に残してあげたいというあたたかい思いからなのではないでしょうか。出会いって本当に素敵でかけがえのないものなのだと実感しました。

帰国後、この2週間で自分は変わることができたのか考えてみましたが、胸を張って変わったと言えることは正直見つかりません。確かに充実した夏休みといえるほど楽しい思い出を作ることができました。しかし、それと同時に、聞けるけど話せないという典型的な日本人であることを再確認し、ネイティブの人と英語で話すことを躊躇してしまいました。もっと積極的に英語で話していたら、日本のことを伝えられたらよかったのに、という後悔と反省の気持ちが残っているのが事実です。また、自由の国アメリカで寛容さを実感したものの、日本に帰るとみんなが同じ、みんなに合わせる文化に埋もれてしまいます。どうにかしてアメリカで感じたことを忘れることなく活かすことができなにか考えた結果、これから変えていけばいいのだと気づきました。良かった点や反省点を含め学んだこと、感じたことを次の目標へのステップとして、私の永遠の課題であるいろいろなことへの挑戦を続けていこうと思います。トルーマン博物館の方がおっしゃっていた「未来をどう変えるかはあなた次第である」という言葉が今でも胸に響いています。本当に悔しいので有言実行します。より多くの人とコミュニケーションがとれるよう、英語の勉強を続け、日本を紹介できるよう日本文化を勉強し、多様な価値観にふれるため日本でもいろいろな人と会い話し、積極的に東村山とインディペンデンスに貢献していきます。今度は私がおもてなしをする番です。

## ☆滞在後の感想

中原 安彩

滞在を振り返ると 2 週間はとてもあっという間だったなと感じます。初めてアメリカに行ってみて、いろんな発見がありました。まず、なにもかも日本とは比べものにならないくらいスケールが大きいことです。土地の広さはもちろん、道路の幅だったり、売っている食品の大きさだったりもです。スケール以外でもアメリカならではのと思ったことがいくつもありました。アメリカに行くと印象に残っているベスト 3 は高速道路が無料なこと、green tea が甘かったこと、太めのマネキンを見つけたことです。また、ホストファミリーもとても良い方でした。こんなにも私のためにやってくくださるんだと驚くぐらいのおもてなしをしていただき、感動しました。とても恵まれていました。ホストファミリーがいたからこそ、とても充実した 2 週間を送れました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

実際にミズーリ州、インディペンデンス市に行ってみることで上記のように様々な発見や気づきを得ることが出来ました。それは目に見える文化の違いだけではなく、言葉が 100%通じなくても気持ちは分かり合えるということ自分の気持ちの持ち方次第で楽しむこともつまらなくすることもできるということに気づきました。また、私自身のモチベーションにも変化がありました。このアメリカ滞在中にようやく姉妹都市交流の歴史の一部に関わっていることを感じられました。2 週間の滞在を無事に終えられたことで長年続いている姉妹都市交流を未来に繋ぐことができたことをとても光栄に思います。また 33 期生としての関係という面でも成長することができたように思います。行く前まではどこかで年齢差を気にしていた私でしたが、アメリカでの滞在を経て、距離をさらに縮めることができた実感しています。

ミズーリ州での 2 週間の滞在は私にとって本当に貴重な体験となり、また忘れられないものになりました。いろんな面で私を成長させてくれました。このような機会をつくってくださったすべての方々への感謝の気持ちを忘れずに、またこの経験が無駄にならないようにしていきたいと考えています。

## 感想

内野 祥宏

私は、滞在前に国際友好協会の方に“この2週間で全てが変わる”や“必ず大きな変化が起きる”と言われていました。しかし、帰国後私が感じたのは“少しの変化と大きな前進”でした。私は、将来海外での仕事またはグローバルな仕事をするために現在大学にてインターナショナルコミュニケーション、異文化理解、国際ビジネスを学んでいます。英語を話す毎日。様々な国の人とコミュニケーションをとる毎日。こんな日常に慣れている私は、日本人以外に囲まれ生活するという2週間の滞在は新鮮味や高揚感は感じられませんでした。私は“自分にとって何か新しいものが得られるのか”という不安感を覚えました。しかし、新鮮味がないということはその環境に慣れているということだと気付いたのです。更にもっとそのことは、自分の将来像へと着々と近づいている、大きな進歩だということも意味していました。このことは実際に海外に行き、その地域の人たちと過ごすことによって気づかされたことです。

大きな進歩と共にいくつかの変化が滞在を通して起きました。まず、1番大きな変化は“コミュニケーション”という概念が変えられたことです。イ市の人々は相手が誰であろうと気さくに話しかけ、楽しい時間をシェアしていました。滞在中、私が笑顔だった瞬間に私を囲んでいた笑顔は必ずしも慣れ親しんだ人たちではありませんでした。つい1時間前に知り合った人がいることも当たり前でした。私がこのことにショックを受けるとともに、楽しさ、心地よさ、幸せを作るのに相手が誰かや相手とどれだけの月日を過ごしたかは関係ないと感じました。たとえ、その人と数分前に知り合ったとしても楽しい時間を過ごす、幸せをシェアできる、その人を幸せにできるのです。私は滞在前、コミュニケーションはただ自分の意志や考えを伝えるためのツールにすぎないと考えていました。滞在を通して、そのことが大きな誤りでありコミュニケーションの素晴らしさに改めて気付かされました。この新たなコミュニケーションの概念は、どんな相手にも通用します。そのため、帰国後家族や友人と会話するのも言葉の重みや温度を感じるようになりました。これにより、人とコミュニケーションをとることが自然と楽しくなりました。これは私にとって小さな変化でしたが、コミュニケーションを学ぶ私には大きな前進でした。この変化を機に、これから学ぶコミュニケーションの全ては、私にとって大きな物になるに違いありません。

以上のことが私が滞在を通して得た変化とそれによる前進です。この滞在は私に死を迎える日までずっと生きるとても価値のあるものを与えてくれました。

## 感想

今井 あかね

この 2 週間のホームステイで私が最も学べたことは、海外のホスピタリティについてです。経済的に規模が大きいアメリカはやはりレジャー施設が充実していて、より多くの場所でスタッフの接客からホスピタリティを学ぶことができました。しかし仕事をしているスタッフからだけではなく、様々な場面で出会った現地の人々からも大きなものを得ることができました。特にホストファミリーを始めとするインディペンデンスの方々が、初対面でもすぐに“welcome”と歓迎してくれたことや、疲れているとき・困ったときによく声をかけてくれたことに私はとても嬉しく感じました。そしてそれが仕事ではなくても自然に出来るところに、本当の心の温かさとおもてなしの意義を考えさせられました。このようなことをきっかけに私は今後、海外事業の展開を積極的に行っている企業に視野を入れて将来を考えようと思うようになりました。

この二週間、たくさんの交流を通じて大切なことを学び、“ただ楽しい”だけではなく“有意義な時間”を過ごすことができたと思います。私にこのような貴重な機会を与えて下さった皆様やこれまでインディペンデンスとの友好関係を築きあげて下さった方々に恩返しができるよう、自分が経験したことやインディペンデンスの良さを次世代の人に伝えていけたらと思います。

Thank you so much!



## 編集後記

尾寄 凜菜

二週間のインディペンデンス市への滞在の総まとめとしてこの報告書を作成させていただきました。手に取って下さった方にインディペンデンス市への派遣プログラムについて興味を持っていただけるように試行錯誤を繰り返しながら作成して参りました。作成に際して工夫したことなどを以下で紹介させていただきます。

今回報告書の作成にあたって最も意識したことは、派遣団員一人ひとりの変化に着目することです。派遣団員として過ごす中で派遣委員の皆さんから、自分について見つめ直す機会やインディペンデンス市への滞在が自分にとってどんな価値を持つのかについて考える機会を頂いたこともあり、報告書では滞在中にしたことやホストファミリーの紹介の他に滞在の前と後で派遣団員にどのような変化がもたらされたかというプラスアルファの部分に焦点を当てることにしました。派遣団員紹介で参加理由と派遣にあたっての抱負を紹介し、最後には派遣を通してどのように変わることができたかを主題として感想を述べています。二週間の楽しい思い出だけではなく、滞在による派遣団員自身の成長についてもこの報告書を通じて知っていただけたら嬉しいです。

内容以外にも報告書作成にあたって全体の統一感が出るように工夫しました。以前の報告書では個人によって書く内容や量に差があり伝わりづらくなってしまっていると感じていたため、今回の報告書では基本の書式や一人ひとりの配分を決めることで見やすくなるように心がけました。その一方でホストファミリーのページは手書きも交えながら派遣団員の個性や温かみが出るようにしました。

報告書の作成にあたっては苦勞したこともありましたが、二週間のインディペンデンス市滞在を経た私達のためだけではなく、この報告書を手に取って下さる全ての方々のことを思って心をこめて作成いたしました。報告書を読んで親善訪問派遣と派遣団員の成長について詳しく知って頂き、興味を持って下さるようお役に立てれば幸いです。最後になりましたが、親善訪問派遣が実りのあるものになるようご尽力下さった渡部市長、市議会議員の皆様、国際友好協会の会員の皆様、派遣委員会の皆様をはじめとした全ての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。